

全校朝礼



2014.7.2(水)

おはようございます。

先週の土曜日「3000人の吹奏楽」を観に行きました。京セラドームでありました。大阪や兵庫の小学生から大学生まで4000人ちかくが参加しました。

九中の吹奏楽部の人たちも豊能地区850人でのマーチングを披露しましたが、迫力があってとても素晴らしい演奏でした。

全員が立派な楽器を持って、冷房のきいたドームで数千人の観客がいて・・・素晴らしい演技を観ながら私は、この平和な日本に生まれて、わたくしたちはなんて幸せなのだろうと思いました。この催しは今年で54回目になります。はじめは1961年、戦後16年にはこんな祭典が開かれたのですから、戦後の日本の復興はめざましいものであったといえます。

さて今、戦後という言葉を使いましたが、その戦争とは太平洋戦争のことです。日本では当時の天皇が玉音放送で日本の敗北を宣言した8月15日を終戦記念日としていますが、その1945年から69年の歳月がながれました。最大規模の地上戦の地となった沖縄では、6月23日を太平洋戦争における沖縄戦の終結した日として慰霊の日に制定しています。

沖縄戦での20万人以上の犠牲者をはじめ海上、海外でなくなった戦没者の冥福と世界の恒久平和を願い、今年も先週6月23日、沖縄平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が行われました。

昨年の追悼式で読み上げられた「平和の詩」が先日、絵本になりました。昨年小学校1年生で沖縄県与那国島にすんでいた安里有生（あさと ゆうき）君の詩です。

「へいわってすてきだね」

へいわってなにか。 ぼくは、かんがえたよ。 おともだちとなかよし。 かぞくが、げんき。 えがおであそぶ。 ねこがわらう。 おなかがいっぱい。 やぎがのんびりあるいている。 けんかしてもすぐなかなおり。

ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまがヒヒーンとなく。 みななどには、フェリーがとまっていて、うみには、かめやかじきがおよいでいる。 やさしいところがにじになる。 へいわっていいね。 へいわってうれしいね。 みんなのころから、へいわがうまれるんだね。

せんそうは、おそろしい。

「ドドーン、ドカーン」ばくだんがおちてくるこわいおと。

おなかがすいて、くるしむこども。かぞくがしんでしまってなくひとたち。あぁ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。このへいわが、ずっとつづいてほしい。みんなのえがおが、ずっとつづいてほしい。へいわなかぞく、へいわながっこう、へいわなよなぐにじま、へいわなおきなわ、へいわなせかい、へいわってすてきだね。これからも、ずっとへいわがつづくように ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

沖縄戦の犠牲者の中にはこの安里君と同じ小学生もたくさんいました。学童疎開にいく子供たちをのせた対馬丸が潜水艦に撃沈され、755名の児童を含む1418名が海に沈みました。この子どもたちにも平和な世の中で人生を謳歌する未来があったはずなのに。

沖縄地上戦が終結したあと8月6日には広島に、3日後の8月9日には長崎に原爆が投下され、語りつくせないぐらいの悲劇がおこりましたね。

第二次世界大戦では、病気や飢餓でなくなった人も含めて5000万から8000万の犠牲者があったといわれています。8500万人という統計もあります。世界中で8500万人の命がうばわれ、8500万の悲しみ、悲劇があったのです。戦争は絶対におこしてはなりません。世界中のだれの命も同じだけ大切な命です。どんな理由があろうとも犠牲になってよい命はありません。

太平洋戦争の記憶のある人もだんだん少なくなってきました。

私の両親でさえ、祖母から聞いた戦争中の話と学童であった体験を語ってくれるだけです。先日、日本の大学生の16%が原爆が投下された都市名を言えなかったと聞いて唖然としましたが、皆さんは大丈夫ですか？

私たち大人には実体験のある方々からその悲惨さをしっかり学んで、次の世代のみなさんに伝えなければならない使命があると思っています。

同時にみなさんは平和について、そしてそれをどう守っていくのかをしっかりと考えていく努力をしなくてはならないと思います。みなさんがこれからの日本を背負っていくのです。夏に向かって、戦争についての報道も多くあるでしょう。おじいさんやおばあさんから戦争中のお話を伺えるのならぜひ、聞いてください。書物や写真集から知ることもできます。平和が当たり前ではないことを学び、小学1年生の安里君のように「**これからも ずっと へいわがつづくように ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ**」ときっぱり言える中学生になってほしいと思います。

